哲学研究 第四十六巻 総目録

自昭和五十一年七月(注)
至昭和五十六年三月

藤原彫刻に関する一考察（未完）……（第一冊 一(1)―一四(14)）……清水善三

カントに於ける様相の問題（承前・完）……（第一冊 一五(15)―五〇(50)）……有福孝岳
――余語、東洋的反省――

超越論的主観性の問題……（第一冊 五一(51)―七二(72)）……田中敦

G・W・F・ヘーゲル体系以前期における思想形成の内面的展開……（第一冊 七三(73)―九七(97)／第八冊 五八(712)―八四(738)）……安彦一恵
――ヘーゲルにおける《理念》と《現実》――

絵画空間について（未完）……（第二冊 一(99)―三二(130)／第五冊 二五(397)―四六(418)）……新田博衛
――アルベルティとヒルデブラント――

カントの「我」と経験……（第二冊 三三(131)―七一(169)）……筒井文隆

ベルクソンの方法とその検討……（第二冊 七三(171)―一〇九(207)）……小川侃
――ベルクソン的反省と現象学的反省――

歴史知識における理論……（第三冊 一(209)―二三(231)／第五冊 一(373)―二四(396)）……クルト・ヒュブナー　神野慧一郎訳

マックス・ヴェーバーにおける理解の方法……（第三冊 二五(233)―五三(261)／第六冊 二三(479)―五五(511)／第九冊 六三(825)―九四(856)）……西谷　敬

デカルトの合理主義について
――理性の意義と役割――……（第三冊 五五(263)―八四(292)／第五冊 四七(419)―七六(448)／第八冊 三三(687)―五七(711)）……山田弘明

トマス・アクィナスにおける《causa rerum》について（未完）
――Sum. theol. I, q. 14, a. 8.――……（第四冊 一(293)―三四(326)／第八冊 一(655)―三一(685)）……山田　晶

芸術過去論……（第四冊 三五(327)―五五(347)）……ヤン・パトチュカ　米沢有恒訳

芸術的気分について……（第四冊 五七(349)―八〇(372)）……太田喬夫

現実……（第六冊 一(457)―二二(478)）……森口美都男

ヒュームに於ける「外界」と「自我」の問題（承前・完）……（第六冊 五七(513)―六七(523)）……田中　進

カントの義務論……（第六冊　六九(525)―九五(551)）……長岡成夫
支配変動論……（第七冊　一(553)―二一(573)）……池田義祐
ホワイトヘッドと西田哲学……（第七冊　二三(575)―四九(601)）……山本誠作
――神と世界との関係をめぐって――
認識と超越……（第七冊　五〇(602)―八二(634)）……杉山聖一郎
――カント哲学の場合――
芸術の過去性をめぐる一考察……（第七冊　八三(635)―一〇〇(652)）……米沢有恒
――ハイデッガーの哲学を中心にして――
現実活動態……（第九冊　一(763)―三五(797)　第十冊　一(877)―六〇(936)）……藤澤令夫
――アリストテレスにおけるキーネーシス（あるいは運動の論理）とエネルゲイア（あるいは活動の論理）との対置について――
探求とロゴス（承前・完）……（第九冊　三六(798)―六二(824)）……水垣渉
空間と幾何学（承前・完）……（第九冊　九五(857)―一一三(875)）……田村祐三
知識学と「弁証法」……（第十冊　六一(937)―八六(962)）……長澤邦彦
――一七九四年の『基礎』を中心に――

ダルマキールティのアポーハ論……（第十冊　八七(963)―一一五(991)）……赤松明彦
視覚の生態――心理学的知覚論への一試考――……（第十一冊　一(1001)―二八(1028)）……柿崎祐一
《芸術の終焉》と《芸術の可能性》――ヘーゲル美学の解釈について――……（第十一冊　二九(1029)―五九(1059)）……岩城見一
伝達の可能根拠について――*Confessiones*, XI, 3, 5――……（第十一冊　六〇(1060)―八〇(1080)）……小浜善信
「構造的発展における哲学」としての体系――西田哲学とヘーゲル哲学との一対立点――……（第十一冊　八一(1081)―一〇〇(1100)）……舩山信一
記憶の二過程……（第十二冊　一(1115)―二九(1143)）……平野俊二
アリストテレスにおける個別と普遍――『形而上学』M巻一〇章の問題を中心として――……（第十二冊　三〇(1144)―四六(1160)）……浅野楢英
直観と綜合……（第十二冊　四七(1161)―七二(1186)）……岡村信孝
T・パーソンズにおける「合議制的アソシエーション」と「専門職」をめぐって――故タルコット・パーソンズ教授を偲ぶ――……（第十二冊　七三(1187)―九〇(1204)）……溝部明男

書評　アカデミー版『シェリング全集』第一巻……（第五冊　七七(449)―八二(454)）……大橋良介
京都大学文学部哲学科卒業論文題目……（第九冊　一一四(876)―一一七(879)）
―昭和四十六年度―
京都大学文学部哲学科卒業論文題目……（第十二冊　九一(1205)―九三(1207)）
―昭和四十七年度―
京都大学文学部哲学科卒業論文題目……（第七冊　一〇一(653)―一〇三(655)）
―昭和五十三年度―
京都大学文学部哲学科卒業論文題目……（第十一冊　一〇一(1101)―一〇四(1104)）
―昭和五十四年度―
京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目……（第九冊　一一七(879)―一一八(880)）
―昭和四十六年度―
京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目……（第十二冊　九三(1207)―九五(1209)）
―昭和四十七年度―
京都大学大学院文学研究科（哲学系）
修士課程修了論文題目……（第七冊　一〇三(655)―一〇五(657)）
―昭和五十三年度―

京都大学大学院文学研究科（哲学系）修士課程修了論文題目 ……（第十一冊　一〇四(1104)―一〇五(1105)）
―昭和五十四年度―

京都大学大学院文学研究科（哲学系）博士課程単位修得者研究論文要旨題目 ……（第十冊　一二一(997)―一二二(998)）
―昭和四十六年度―

京都大学大学院文学研究科（哲学系）博士課程単位修得者研究論文要旨題目 ……（第十二冊　九五(1209)―九六(1210)）
―昭和四十七年度―

京都大学大学院文学研究科（哲学系）博士課程単位修得者研究論文要旨題目 ……（第十冊　一二二(998)）
―昭和五十三年度―

京都大学文学部哲学科講義題目 ……（第十冊　一一六(992)―一二一(997)）
―昭和四十七年度―

京都大学文学部哲学科講義題目 ……（第八冊　八五(739)―九〇(744)）
―昭和五十四年度―

京都大学文学部哲学科講義題目 ……（第十一冊　一〇六(1106)―一一三(1113)）
―昭和五十五年度―

外国哲学者来訪記事……（第八冊　九〇(744)）
哲学茶話會記事……（第九冊　一一九(881)）

註　第四十六巻の通算頁付（欄外上段隅）には次の混乱がある。

（1）　五百三十七号は六五七頁に終り、五百三十八号は六五五頁よりはじまる。

（2）　五百三十八号は七四四頁に終り、五百三十九号は七六三頁よりはじまる。

（3）　五百三十九号は八八一頁に終り、五百四十号は八七七頁よりはじまる。

——但し、本論の通算頁付と彙報のそれとを、別個の頁付と見做せば、右の混乱による不便は多少緩和される。例へば、八七八頁についての言及が彙報に関するものであれば、五百三十九号の当該頁を参照することにより、本論についての言及であれば、五百四十号の当該頁を参照することにより。

輯報告

第四十六巻の総目録を作成する段階にいたって、右記のごとき不始末が発見されました。これは、彙報欄復活以後に生じた混乱でありますが、本誌の体裁をはなはだ損ふものであり、単に直接の担当者の責任であるのみでなく、監督しうる立場にあった委員一同の責任でもあります。今後は、ふたたびこのやうな不始末を繰返さぬやう、ひたすら自戒してまいりたいと存じます。会員各位の御寛恕をお願ひ申し上げます。

昭和五十六年三月

編輯代表